










会 告

平成 16 年度からの学会正会員(66 歳以上)会費改定とこれに伴う農業土木学会規則の一部改正について	78
農業土木学会常置委員会並びに特別委員会内に専門委員の設置とこれに伴う農業土木学会委員会設置規程の一部改正について	78
農業土木学会学会賞の推薦締切日の変更とこれに伴う授賞規程の一部改正について	78
名誉会員の推挙に関する内規の一部改正について	79
災害調査の発動ならびに運用に関する内規の一部改正について	79
地域環境工学シリーズ9「食の安全と地域の豊かさを求めて 新しい畑整備工学」の発刊のお知らせ	79
農業土木学会学術基金」の募金について	80
農業土木学会誌の愛称についてご意見を！	80
平成 16 年度農業土木学会学術基金援助希望者募集について.....	80
農業土木学会「農村生態工学研究部会」設立のお知らせとご参加のお願い	81
アフリカの農業農村開発 TICADIII の目指すもの 第 20 回海外事情講演会の開催(第 1 報) 	82
水田農業を巡るアジアのパートナーシップ 国際コメ年に農業土木は何ができるか 第 25 回国際問題シンポジウムの開催 	82
「寒冷乾燥気候アジアにおける砂漠化進行農地および草原の修復と貧困改善対策」プロジェクト第 3 回ワークショップの開催(再) 	83
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め	83
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の購読の勧め	84
農業土木学会誌への投稿お待ちしております！小特集以外の投稿も歓迎します。	84
あなたの写真で学会誌の表紙を飾ってみませんか 平成 17 年表紙写真募集	85
平成 16 年度(第 26 回)農村計画研究部会現地研修会(第 1 報) 	85
第 12 回キャビテーションに関するシンポジウム開催 	86
農業土木学会論文集第 229 号内容紹介	87
学会記事	90


農業土木学会(本部)行事の平成 15・16 年度計画

農業土木学会(本部)15・16 年度行事について、下表のように計画いたしました。奮ってご参加下さるようお願いいたします。

 のマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム、または認定申請中  を表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 16 年 2 月 21 日	地球環境委員会	第 3 回ワークショップ 	「寒冷乾燥気候アジアにおける砂漠化進行農地および草原の修復と貧困改善対策」	岡山市	72 巻 1 号
平成 16 年 3 月 4 日	国際委員会	第 20 回海外事情講演会 	アフリカの農村開発	農業土木会館	72 巻 2 号
平成 16 年 3 月 15 日	国際委員会	第 25 回国際問題シンポジウム 	水田農業をめぐるアジアのパートナーシップ 国際コメ年に農業土木は何ができるか	農業土木会館	72 巻 2 号
平成 16 年 9 月 7~10 日	平成 16 年度大会 運営委員会	平成 16 年度大会講演会 		札幌市	72 巻 1 号

農業土木学会関連行事予定

平成 16 年 2 月 3 日	関東支部	支部研修会・地方講習会 	設計基準・設計「ダム」の改定の解説と環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計・解説について	土浦市	71 巻 12 号
平成 16 年 2 月 5 日	京都支部	第 24 回シンポジウム 	農業水利施設の機能診断と保全・更新	金沢市	71 巻 12 号
平成 16 年 2 月 27 日	材料施工研究部会	第 41 回シンポジウム 	性能照査設計とは何か	鳥取市	71 巻 11,12 号
平成 16 年 3 月 18 日	水土文化研究部会	第 1 回研究会 	水土文化研究のフレームと方向性	つくば市	72 巻 1 号
平成 16 年 8 月 26,27 日	農村計画研究部会	第 26 回現地研修集会 	みんなで描く山里ものがたり	高山市	72 巻 2 号

平成16年度からの学会正会員(66歳以上)会費改定と これに伴う農業土木学会規則の一部改正について

農業土木学会では、標記について議論を重ね、第245回企画委員会(平成15年11月28日開催)並びに運営業務担当理事会(平成15年12月19日開催)および第185回理事会(平成15年12月19日開催)に諮り、平成16年度から下記のように実施することが承認されました。これに伴い、農業土木学会規則の第9条第1項に、同(66歳以上)年額4,800円を追記する一部改正を行います。

なお、全文については学会HPを参照ください。

記

正会員 (65歳まで)	9,600円	66歳以上	4,800円
学生会員 大学院生	5,500円	学部学生	2,500円(平成15年度から実施)

高齢者の皆様には、これまで長年学会活動に多大な貢献ををいただいております。しかしながら昨今では60歳に達せられますと学会活動から離れられる方も多く、学会としては会員の減少、サービスの低下に苦慮しております。この現状をご理解、ご勘案を賜り、引き続き会員をご継続いただきますよう、お願いいたします。

農業土木学会常置委員会並びに特別委員会内に専門委員の設置と これに伴う農業土木学会委員会設置規程の一部改正について

農業土木学会では、さまざまに活動いただいている常置委員会および特別委員会の運営の効率化を図るため、委員会の業務に協力いただく専門委員を設けることについて議論を重ね、第245回企画委員会(平成15年11月28日開催)並びに運営業務担当理事会(平成15年12月19日開催)および第185回理事会(平成15年12月19日開催)に諮り、審議のうえ、専門委員を設けることが承認され、平成16年度から実施することいたしました。

また、これに伴い、設置規程第3条に、必要に応じて支援・提案をする専門委員をおくことができる。を追記する一部改正を行います。なお、全文については学会HPを参照ください。

会員各位におかれましては、委員会から専門分野に関する専門委員就任の依頼に対しましてはご承諾くださいますよう、お願いいたします。

農業土木学会学会賞の推薦締切日の変更と これに伴う授賞規程の一部改正について

農業土木学会研究委員会では、標記について議論を重ね、第245回企画委員会(平成15年11月28日開催)並びに運営業務担当理事会(平成15年12月19日開催)および第185回理事会(平成15年12月19日開催)に諮り、審議のうえ、これまで9月末であった推薦締切日を、毎年10月末とすることが承認されました。またこれに伴い、農業土木学会学会賞授賞規程を、下記のように一部改正を行います。

第12条(推薦)3項の推薦締切日を毎年10月末まで

なお、全文については学会HPを参照ください。

名誉会員の推挙に関する内規の一部改正について

標記について、第 245 回企画委員会（平成 15 年 11 月 28 日開催）並びに運営業務担当理事会（平成 15 年 12 月 19 日開催）および第 185 回理事会（平成 15 年 12 月 19 日開催）に諮り、審議のうえ、名誉会員の推挙に関する内規の一部改正について、以下のとおり承認されましたので、お知らせいたします。なお、全文については学会 HP を参照ください。

会員の皆様には、長年学会の活動にご協力いただき感謝申し上げます。しかし、近年は会員数の減少に直面しております。学会活動の活性化のためにも、是非、会員を引き続きご継続いただきますよう、お願いいたします。

「名誉会員の推挙に関する内規」

（昭和 36 年 3 月 24 日理事会）
（昭和 50 年 2 月 24 日改正）
（平成 9 年 12 月 16 日改正）
（平成 10 年 2 月 20 日改正）
（平成 15 年 12 月 19 日改正）

名誉会員候補に推薦される方は、次の各項のいずれかに該当するものとする。

1. 学会の運営または学会発展に尽力された正会員で、次のいずれかに該当する者
 - (1) 会長をつとめた 65 才以上の者
 - (2) 役員をつとめた 70 歳以上の者
 - (3) 各種委員会委員長の在任期間の合計が 4 年以上を超え、70 歳以上の者
 - (4) 会員を 30 年以上継続した 80 歳以上の者
2. (中略)

付則 この改正内規は、平成 15 年 12 月 19 日から施行する。

災害調査の発動ならびに運用に関する内規の一部改正について

いつ起こるか予測できない災害の調査活動を機動的に行うことを目的とした、標記のことについて議論を重ね、第 245 回企画委員会（平成 15 年 11 月 28 日開催）並びに運営業務担当理事会（平成 15 年 12 月 19 日開催）および第 185 回理事会（平成 15 年 12 月 19 日開催）に諮り、災害調査発動ならびに運用に関する内規の一部改正について、審議のうえ、

- (3)に、**学会長の要請に基づく**、
(4)に、**、**、**のいずれの場合も、学会長および担当副会長が決定し**、
(7)に、**調査の際は学会支部（支部長）に即座に連絡し、連携して調査団を組織し、および**
(9)Dに、**調査団はニュース欄等で学会誌に発表する義務を負う。**

を追加する一部改正を行うことが承認されましたので、お知らせいたします。なお、全文については学会 HP を参照ください。

地域環境工学シリーズ 9

「食の安全と地域の豊かさを求めて 新しい畑整備工学」の発刊のお知らせ

このたび、地域環境工学シリーズ 9「食の安全と地域の豊かさを求めて 新しい畑整備工学」が 2 月下旬に発刊されることになりました。ご希望の方は、下記の要領でお申し込み下さい。

なお、内容は下記のようになっています。

目 次

・わが国の畑作の歴史と特徴

1. わが国における畑作の歴史 2. 営農形態別の特徴
3. 畑整備の現状 4. 国際情勢、社会情勢の変化 5. 中山

間地域における畑整備

・畑整備の基礎

1. 作物と水 2. 畑地基盤と畑作農業 3. 畑地の整備手法
- ・畑整備の今後の展開方向

1. 畑整備における技術的課題 2. 新たな畑整備の展開

・畑整備と地域環境管理

1. 土壌侵食防止 2. 持続的農業のための土管理 3. 畑作と環境保全 4. 環境との共存をめざした畑作の将来像

記

- | | |
|---|---|
| <p>1. 判型 A5判 約210ページ</p> <p>2. 販価 会員特価 2,900円(内税,送料学会負担)
定価 3,300円</p> <p>3. 申込方法 郵便振替(00160 8 47993),現金書留でお申込み下さい。</p> | <p>4. 申込先 〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4
(社)農業土木学会事務局 担当: 関根
☎ 03 3436 3418 FAX 03 3435 8494</p> |
|---|---|

「農業土木学会学術基金」の募金について

農業土木学会は、農業土木の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業土木学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設、上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等によることとしてきました。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成15年度までに38件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円以上(何口でも可)

法人会員一口 50,000円以上(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行: みずほ銀行日比谷支店

普通預金 No.1569058 口座名 (社)農業土木学会学術基金

郵便振替: 00140 2 54031 加入者名 農業土木学会学術基金

農業土木学会誌の愛称についてご意見を!

農業土木学会誌編集委員会

昨今の農業土木を巡る環境の変化に伴い、現在の「農業土木学会誌」という名称が、その内容を的確に反映しているか、また気軽に手にとって読んでもらえるのだろうか、読んでもらえる誌名とは?等々について、学会誌編集委員会では、平成14年からの2年の間、委員会のたびごとに時間をかけて議論をまいりました。その結果、「農業土木学会誌」という名称はそのまま残すこととして、愛称をつけることといたしました。

そして、平成15年12月委員会において、会員からの意見を勘案しつつさらに議論を深め、下記の5案を学会誌編集委員会案として示し、改めて会員の皆様のご意見をいただくことといたしました。

した。

ご意見は、たとえば、「もう少し表現をやわらかくしたら」とか、「こんなのはどうか」とか、どのようなご意見でも結構です。

平成16年4月末を締切として、学会あてのE-mail、学会ホームページ上の掲示板、落書き帳、学会誌のFAX通信、あるいは郵便等でお寄せ下さい。たくさんのご意見をお待ちしております。

E-mail: suido@jsidre.or.jp 学会HP: <http://www.jsidre.or.jp>

委員会案: 農業土木、水土の知、農と環境、水と土と農、地域と環境

平成16年度農業土木学会学術基金援助希望者募集について

学術基金運営委員会

農業土木学会では、平成3年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施してまいりました。

平成16年度は、規定第4条(1)の「特定の分野および学際的の分野に関する調査・研究の推進」、(2)の「農業土木学の国際交流の推進」、(3)の「若手研究者の育成」の援助を実施いたします。

援助を希望される方は、学会ホームページで申請書様式をダウンロードして、E-mailで学会事務局あてお申込下さい。

記

1. 援助の対象: 農業土木学会の会員(学生会員含む)、または会員によって構成されるグループ
2. 援助方針
 - (1) 農業土木に関して特定の分野および学際的の分野に関する調査・研究の推進に寄与すると思われる研究について援助する。
 - (2) 平成16年度中(平成16年4月から17年3月)に海外で開催される国際学術会議への出席費用の一部を援助する。な

お、自ら研究発表等を行う若手会員とする。ただし、発表が国際会議の主催者から受理されていなくても、申請は受け付ける。この場合は受理を条件として援助の可否について決定を行う。

(3) 若手研究者の研究に対して援助する。

3. 1件当たりの援助金の目安 1件 15万円程度を限度とする。

4. 申請締切 平成 16 年 3 月 22 日

5. 報告の義務 援助を受けた者は、学会誌に記事を投稿する。

6. 申込み・問合せ先

〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4

(社) 農業土木学会学術基金運営委員会

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

農業土木学会「農村生態工学研究部会」設立のお知らせとご参加のお願い

私ども農業土木学会「農村生態工学研究部会」は、第 185 回理事会で設立が承認されました。つきましては、皆様に部会の趣旨や活動予定を説明させて頂くとともに、部会への参加をお願いいたします。

1. 設立趣旨

平成 14 年 3 月に見直された生物多様性国家戦略では里地里山等における生物多様性の危機が位置付けられ、また、平成 15 年 1 月には自然再生推進法が施行されるなど、人間生活や社会経済活動と自然環境の共生は国民全体の課題となっています。平成 14 年 4 月から施行された改正土地改良法においては、すでに「環境との調和への配慮」が土地改良事業の実施原則として規定されています。

こうしたなかで農業土木学会が策定した「新たなく水土の知」の定礎に向けては、「さまざまな水や物質の循環系、あるいは生態系を回復していくような全体的な対応が必要」と指摘し、その重要性を内外に明らかにしました。

このような動きに伴って、農村地域における環境整備構想の策定段階や、個別プロジェクトにおける事業計画・設計・施工・管理等の各段階で生態系への配慮が取り組まれるようになりました。しかしながら、二次的自然として特徴づけられる農村生態系のメカニズム、あるいはそこに生育・生息する生物群集の営みについては十分解明されているとは言い難く、また、農業農村整備事業等、農村空間の改変を伴うような行為が生物群集とそれを支える環境と資源に及ぼす影響の評価方法も未確立の状態です。さらに、生態系に配慮した農業農村整備事業の展開に当たって、計画論的、技術論的、管理論的な知見の蓄積は十分ではなく、手探りで進めているのが現状です。

農業・農村の多面的機能の充実が求められ、農業における環境政策のあり方が問われるようになった昨今の動きの中で、「農と自然の共生」を支える実践科学と基礎科学との融合は、焦眉の課題となっています。

こうした認識から、農業土文学、農学、生態学などの関係者が相集い、農村生態工学（農村生態系に適應して生育・生息する生物群集の保全および農村生態系の修復と、生産と生活の場である農村の振興という、二つの目的を融合的に研究するための「学」）を構築する場として、研究部会を設立するものです。

2. 参集範囲

設立目的に賛同し入会を申し出た農業土木学会に所属する学会員、および農学、生態学など他分野の非学会員の幅広い参加を募ります。

3. 活動内容

- 共同研究の実施
- 研究会、シンポジウムなどの開催
- 研究成果の刊行、配布
- 研究部会誌の発行
- その他、目的達成に必要な事業

4. 部会長

広田純一（岩手大学農学部農林環境科学科教授）

5. 入会

学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>）または（社）農村環境整備センターのホームページ（<http://www.acres.or.jp>）にある登録様式に必要事項を記入の上、研究部会総務担当（seitaikei@acres.jp）まで、メールで送付してください。

6. 会費：年会費 2,000 円

ただし、研究部会行事等を開催する際は、必要に応じ、別途資料代等を徴収することがあります。

7. 連絡先

〒103 0011 東京都中央区日本橋大伝馬町 11 8

フジスタービル 2F （社）農村環境整備センター

（研究部会総務担当：鹿嶋，村山，米田）

☎03 5645 3671 FAX 03 5645 3675

E mail: seitaikei@acres.jp

アフリカの農業農村開発 - TICAD の目指すもの - 第20回農業土木学会海外事情講演会(第1報)

国際委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



第3回アフリカ開発会議(TICAD)が、アフリカ50カ国を含む89カ国と47の地域・国際機関の参加を得て、2003年9月29日~10月1日の3日間、東京において開催されました。会議においては、TICAD 10周年宣言が採択され、平和の定着や人間の安全保障に基づく開発アプローチなどが確認されたほか、様々な開発分野における優先課題が特定され、今後のアフリカ開発に向けた新たなイニシアティブが採用されました。

農業開発分野も議長サマリーで8つの開発課題の一つとして位置付けられ、生産性向上のための技術支援、ネリカ米の開発普及促進、金融・土地・技術・制度へのアクセス確保、砂漠化対策等が重要課題とされたところです。

学会においては、TICAD の開催に先立ち、2002年11月号の学会誌で特集を組んだところですが、更に今回TICAD での具体的議論をご紹介するとともに、農業土木分野における我が国のアフリカ農業農村開発協力の展開方向について意見交換すること

が有意義であると考え、海外事情講演会を下記のとおり開催することと致しました。会員各位のご参加をお待ち致しております。

記

1. 主催 (社)農業土木学会
2. 共催 (財)日本農業土木総合研究所,(社)海外農業開発コンサルタント協会
3. 期日 2004年3月4日(木) 13:00~17:00
4. 場所 農業土木会館6階大会議室
5. テーマ アフリカの農業農村開発 TICADIIIの目指すもの
6. 定員 100名程度
7. 参加費 資料代程度
8. 申込・問合せ先 (社)農業土木学会国際委員会

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

水田農業を巡るアジアのパートナーシップ 国際コメ年に農業土木は何ができるか 第25回農業土木学会国際問題シンポジウムの開催

国際委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



昨年3月、京都、滋賀、大阪で開催された第3回世界水フォーラムにはアジアを含め150カ国以上の国と地域から24,000人を超える人々が参加し、340余件の水問題が議論されました。その成果として、それぞれの地域特性を再認識し、地域特性に応じた水利用やその管理を考えていくことの重要性についての共通認識が参加者の間で醸成されました。これに加えて、水問題の解決の糸口になるのは、同じ地域の関係国、関係者間の連携あるいはパートナーシップやネットワークの確立による交流促進の重要性がもう一つの共通認識となりました。

これまで、農業分野でアジアの水問題について共通の認識や科学的技術的ベースに立って、幅広い議論を行う場はありませんでした。日本は今回の水フォーラムを踏まえて、コンソーシアムを早期に組織し、真剣にアジアの地域特性を見つめ、そこでの水問題を幅広く議論していくことを提起することとしています。

アジアの農業は稲作に代表されますが、稲作はアジアのみならず世界各地で行われ、多数の国々で主要穀物に位置づけられています。

2004年は国際コメ年の年でもあり、アジアを中心とする世界の国々および人々とのパートナーシップを確立し、アジアの水利用特性を世界各地で理解してもらうために、日本の関係者はどのよ

うに考え、行動していくべきかが問われています。農業と水利用の課題は、農産物貿易、途上国における人口増加と食料の確保等の幅広い問題にも関わる重要な問題です。

本シンポジウムでは、第3回世界水フォーラムを踏まえて現在展開されている状況の報告と、今後進むべき方向や目標等のロードマップ作成について活発に論議することとしています。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。



後援：農林水産省

1. 期日 2004年3月15日 12:30~17:30
2. 場所 農業土木会館6階大会議室
3. テーマ 水田農業を巡るアジアのパートナーシップ 国際コメ年に農業土木は何ができるか
4. プログラム(予定)
12:30~12:40 開会挨拶 千賀裕太郎国際委員会委員長
12:40~13:30 基調講演 モンスーンアジアの水文循環と水田

稲作

虫明功臣 福島大学行政社会学部応用社会学科教授

13:30~14:10 話題1 メコン河における水循環変動研究が目指すもの

増本隆夫(独) 農業工学研究所地域資源部水文水資源研究室長

14:10~14:50 話題2 国際水田・水環境ネットワークとOECDの水議論

馬場範雪 農林水産省土地改良企画課計画調整室課長補佐

14:50~15:05 休憩

15:05~15:45 話題3 アジア地域の水を巡るパートナーシップ
吉田恒昭 拓殖大学国際開発学部教授

15:45~16:25 話題4 湿潤地域の農業用水 水利用の競合性と
潜在価格が変動する資源 をめぐる国際

議論

山岡和純(独) 農業工学研究所農地整備部用水管理研究室長

16:25~17:20 パネルディスカッション
コーディネータ 的場泰信(海外農業開発コンサルタンツ協会専務理事)

パネラー 虫明功臣, 増本隆夫, 馬場範雪, 吉田恒昭, 山岡和純
17:20~17:30 閉会挨拶

5. 定員 100名程度

6. 資料代 一般 4,000円 会員 2,000円(当日会場で申し受けます)

7. 問合せ・申込先 (社)農業土木学会国際委員会担当 吉本
☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

「寒冷乾燥気候アジアにおける砂漠化進行農地および草原の修復と
貧困改善対策」プロジェクト第3回ワークショップの開催(再)

農業土木学会地球環境研究委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



本委員会の2003年度活動として、標記プロジェクトの第3回
ワークショップを下記の通り開催いたします。関心をおもちの方、
多数の参加をお待ちしています。

1. 日時: 2004年2月21日(土) 13:30~17:00

(情報交換会 17:30~19:30)

2. 場所: 岡山市津島新野1-1-22 「つしま苑」

☎.086 252 1331

3. 定員 50名程度

4. 参加費 無料

5. 問合せ先・申込先

赤江 剛夫 akae@cc.okayama-u.ac.jp

岡山大学 環境理工学部 環境管理工学科

☎ FAX: 086 251 8874

*このワークショップは、平成15年度環境事業団地球環境基金
の助成を受けて開催されます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め

農業土木学会では、2003年1月から日本、韓国、台湾を中心と
したアジアモンスーン地域の農業土木学関連学・協会および各国
国際機関等と連携して、新たな国際ジャーナル「Paddy and Water
Environment」を発刊し、2004年3月にはVol.2 No.1が発刊され
ます。

我が国においても学術誌の評価にSCI (Science Citation Index)
のIF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでも
IFの取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界13カ国からEditor(13名)を選出することにより、
国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的
な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer Verlag社
からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical ReportおよびShort
Communicationの4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI獲得のため
に年4回の発行としております。投稿者は購読会員に限りますが、

投稿料、掲載料などを無料として投稿者の負担を軽くするよう
に配慮されています。

皆様方の多数の投稿を期待しております。

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術
の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、
土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、
地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田
畑輪換等 である。

編集体制:

• Editor in Chief: Dr. Yohei Sato (Japan)

• Editors および Editing Board には世界各国から斯界の権威が
就任しています。

• Managing Editors: Dr. Yoshisuke NAKANO (Japan), Dr.
Nobumasa HATCHO (Japan), Dr. Yoshito YUYAMA
(Japan), Dr. Ke Sheng CHENQ (Taiwan), Dr. Chun

Gyeong YOON (Korea)

出版社：Springer Verlag社(ドイツ)

投稿資格：筆者全員が購読者であること。

投稿先：農業土木学会気付・中野芳輔宛で受付。

投稿要領等：http://www.jsidre.or.jpに詳細を記載しています。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の購読の勧め

農業土木学会は、新たな国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の創刊号を2003年3月に創刊し、逐次年4回のペースで、2004年3月には、Vol.2 No.1が発行の予定です。

本ジャーナルでは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

たくさんの方が購読されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理, 水消費, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画(農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用(田畑転換, 施設園芸)

⑩ 農業政策(農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として, 皆様の購読をお勧めします。

出版社：Springer-Verlag社(ドイツ)

発刊スケジュール：創刊号・2003年3月, 以後3カ月ごと

購読料：正会員 12,000円/年/4冊(送料等学会負担)

学生会員(院生含む) 8,500円/年/4冊(送料等学会負担)

申込先：農業土木学会編集出版部 吉武宛

ホームページ：http://www.jsidre.or.jp

購読のお申込みは, 学会HP(<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>)の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR SUBSCRIBER」にご記入のうえ, メールまたはFAXでお申込みいただけます。

農業土木学会は, 300部の購読者を募る義務を負っておりますが, 現在購読会員は240名(1月現在)であり, いまだ義務部数には達していません。そのため, 編集業務を含め年間数百万の赤字体質となっております。この窮状をお察しいただき, 多くの新規入会のお申込をお願いします。

農業土木学会誌への投稿お待ちしております！小特集以外の投稿も歓迎します。

農業土木学会誌編集委員会

72巻・73巻の小特集テーマのお知らせと報文原稿の募集

小特集のテーマに沿った原稿を, 次表に従って広く会員から募集いたします。小特集以外の自主投稿も歓迎します。

また, 今後取上げてほしい小特集のテーマについても, 広く募集いたします。なお, 小特集のテーマは仮題となっておりますので, 予告なく変更することがございます。特集の趣旨をお読みいただいた後, 公募原稿要旨を学会誌編集委員会あてにお送りください。

採用された原稿の分量は, 刷上り4ページとなっておりますので, ご執筆の際には厳守いただきますよう, お願いいたします。

学会誌第72巻8号～73巻5号までの小特集のテーマ(予定)

小 特 集 の テ ー マ	要旨締切(必着) (A4判用紙, 1,500字以内)	原稿締切
8号 支部活動および中央研修会	公募なし	平成16年3月15日
9号 国際コメ年(RICE YEAR 2004)(仮)	平成16年3月22日	平成16年4月15日
10号 知的財産権(仮)	平成16年3月31日	平成16年5月14日
11号 都市と農村の交流(農村観光)(仮)	平成16年4月30日	平成16年6月15日
12号 国立大学法人化(仮)	平成16年5月31日	平成16年7月15日
73巻 1号 水土文化遺産(仮)		
2号 ブロック編集担当号の予定です。		
3号 貧困削減・平和構築と海外農業農村開発, 食糧自給率(仮)		
4号 流域の水環境管理(減水深を含む)(仮)		
5号 技術者資格(仮)		

あなたの写真で学会誌の表紙を飾ってみませんか
—平成 17 年「農業土木学会誌」表紙写真の募集—

農業土木学会誌編集委員会

表紙写真の公募には、例年多くの方から応募いただいております。学会誌編集委員会では、平成 17 年も皆さまからの写真で表紙を飾ることを企画しました。つきましては、下記の要領で学会誌第 73 巻（平成 17 年 1～12 月号）の表紙写真を募集しますので、ふるってご応募下さい。

なお、単写真だけでなく、組写真による応募も受付けております。組写真では、3～4 枚の写真を組み合わせて、ストーリー性を持たせた写真にして下さい。

記

1. **趣 旨** 近代に至るまで、わが国の農業土木技術者たちはその時々の技術を結集し、稲作、ひいては国土を支えてきました。こうして築かれた「造形」の多くは周辺の風景と一体化しつつ、今もなお、その機能を十分に発揮しています。

学会誌編集委員会では、農業土木の先駆けとなったそうした農業水利遺産を見直すために、「先人たちの造形が織りなす風景」をテーマとし、学会誌の表紙を飾る写真を公募することとしました。皆さんの身近なところやふるさとで、先人たちの想いに心寄せながら、心に残る「一枚」を見つけ、ぜひお送りください。

なお、本来の機能を発揮している灌漑期だけでなく、静かにたたずむ非灌漑期の写真も、お待ちしております。

2. **写真の種類** 単写真、組写真いずれもカラープリントでサイ

ズは六ッ切。組写真の場合は、そのことを明記して下さい。

3. **枚 数** 応募点数には制限がありませんが、未発表のものに限ります。

4. **締 切** 平成 16 年 9 月 30 日（必着）

5. **審 査** 審査委員会（編集委員と写真家で構成）で 12 点を選びます。

6. **結果発表** 学会誌 73 巻第 1 号で入賞者と掲載号を発表し、入選作品は、平成 17 年度大会会場でパネル展示します。

7. **賞 品** 入選作品 1 点につき 3 万円（表紙掲載料含む）。応募者には記念品をお贈りします。

8. **応募資格** 学会員でなくとも結構ですので、周囲の方々にもお勧め下さい。

9. **その他** 応募写真の裏面にタイトル、住所、氏名、年齢、職業、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影月日、撮影データ（フィルム、使用カメラ）を記入して下さい。また、対象物の名称（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明（いつ、だれが、どうして等）もお寄せ下さい。

原則として、応募写真は返却いたしません。なお、入選作の著作権は、(社)農業土木学会に属します。

10. **宛 先** 〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4

(社)農業土木学会 農業土木学会誌編集委員会
 「表紙写真公募」係

平成 16 年度（第 26 回）現地研修集会のお知らせ（第 1 報）

農村計画研究部会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



農村計画研究部会では、下記のとおり平成 16 年度第 26 回現地研修集会を開催いたします。開催県の優れた事例をみることで、農村整備計画の実務担当者に変好好評です。どなたでも参加できます。

なお詳細につきましては、決まり次第本誌で紹介いたします。

記

1. **テーマ（仮）**: みんなで描く山里ものがたり～古きをたずね、人と地域資源でつむぐ～

2. **日程**: 平成 16 年 8 月 26 日（木） 研修集会
 27 日（金） 現地検討会

3. **会場**: 飛騨・世界生活文化センター（岐阜県高山市）

キャピテーションに関するシンポジウム(第12回)開催について

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. **主催** : 日本学術会議メカニクス・構造研究連絡委員会, 水力学・水理学専門委員会, 第12回キャピテーションに関するシンポジウム実行委員会
2. **共催** : 農業土木学会他 20 学協会
3. **開催日** : 平成 16 年 3 月 18 日(木), 19 日(金)
4. **会場** : 九州大学創立 50 周年記念講堂 4 階会議室(箱崎)
会場へのアクセスおよび次第については, 下記をご覧ください。
<http://www.nams.kyushu-u.ac.jp/common/fluid/cav12/>
5. **懇親会** : 3 月 18 日の講演終了後, 同じく記念講堂 2 階ファカルティクラブにて懇親会を開催します。参加費は 5,000 円です。奮ってご参加下さい。
6. **参加費** : 一般 8,000 円(前刷集込み), 学生 3,000 円(前刷集込み)
当日受付でお支払い下さい。なお, 前刷集のみは 1 冊 5,000 円です。
7. **申込要領** : 電子メールで, 題名(J)に“CAV12参加”と題記し, 本文に
 - (1) 氏名(ふりがな)
 - (2) 勤務先(部課名も記載)および所在地, 電話番号, E-mail アドレス
 - (3) 通信先
 - (4) 懇親会に参加・不参加
 を明記の上, fmfuru@mech.kyushu-u.ac.jp 宛にお申込み下さい。なお, 電子メールでのお申込みが困難な場合には, FAX: 092-641-9744 でもお受け致します。
参加証は当日受付でお渡しします。
8. **申込締切** : 平成 16 年 3 月 10 日(参加申込は当日でも受け付けますが, 準備の都合上, この日迄にお申し込み願います。)
9. **申込・連絡先** : 〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1
九州大学大学院工学研究院機械科学部門
古川明德 教授宛
(e-mail: fmfuru@mech.kyushu-u.ac.jp)
☎092-642-3435(直通) FAX 092-641-9744